

第94回箱根駅伝

新たな伝説の1ページ記す
笑顔はじける！
シード権獲得に
総合7位で3年ぶり



「最強への挑戦」はすでに始まっている

1区に起用されたのは、1方で28分44秒15を持つ次期エース格の西嶋雄伸(経営2)。17分過ぎで離され18位で襷を渡したものの先頭とは1分2秒差で2区・菅真大(経営4)につないだ。昨年11月の全日本大学駅伝で区間賞を獲得した菅は、1・2年時は復路での起用だったが今回、エース区間の2区を任せられた。菅は安定感のある走りでも順位を五つ上げ、13位で3区・中島公平(経営3)につなぐ。中島はまずまずの走りでも順位を二つ上げ、シード権目前の11位で4区・金子元気(経営3)へ。昨年、関東学生連合の一員として出場した金子は、この一年チームの核として引っ張ってきた金子は区間4位と好走し、シード圏内の10位に順位を上げた。続く5区・服部

潤哉(経営3)が山の上りで覚醒した。4人を抜き、チームを6位へと押し上げ、「山の神」候補として名乗りを上げた。復路は往路優勝の東洋大学から4分50秒差でスタート。6区は1年生の菊地駿彦(経営1)が抜擢された。昨年卒業した菊地駿彦(現SUBARU)の弟で長い距離に定評がある。兄に続く好走が期待されたが、順位を三つ落として7区の本山竜也(経営4)につなぐ。2年前、山本は同じ7区で区間17位と悔しい思いをした。最後の箱根駅伝は区間4位と好走し順位を二つ上げて、笑顔で8区・大石巧(経営3)へ襷渡し。高校までサッカー選手だった大石は、チームの核の一人として成長、初の箱根路で区間4位の好成績を残し

た。チームはシード圏内の7位で9区・中原佑仁(経営2)へ。区間順位は振るわなかったが、順位をキープしたまま最終10区の狭久保寛也(経営2)へ最後の襷リレー。初の箱根で区間7位と力走し笑顔で大手町に帰ってきた。3年ぶりのシード権獲得に、大手町では選手や関係者の笑顔がはじけた。昨年の雪辱を箱根路で見事に晴らした選手たちは誇らしげだった。来年の箱根路が約束された新チームは、出雲駅伝への出場権も獲得した。今回出場した10人のうち8人が残る新チーム。目標だった過去最高順位(5位)を突き抜けた走りを期待したい。「最強への挑戦」はすでに始まっている。

復路は新記録で6位

往路は新記録で6位

3年ぶり4回目のシード権獲得——。第94回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1月2、3日に行われた。2年ぶり14回目の出場となった男子駅伝部は、山の上り・5区での服部潤哉(経営3)の4人抜きの快走や金子元気(経営3)、山本竜也(経営4)、大石巧(経営3)のそれぞれ区間4位の力走もあって総合11時間12分12秒で7位入賞を果たした。6位の往路は5時間33分19秒で往路新記録だった。「新たな伝説～最強への挑戦～」を掲げてチーム一丸となって再起を期してきた男子駅伝部が、新たな始まりとなる伝説の1ページを記した。
【高桑霞美】

総合成績

総合7位 (11時間12分12秒)
往路)6位 (5時間33分19秒)
復路)8位 (5時間38分53秒)

オーダー	記録	区間順位
1区 西嶋 雄伸 (経営2)	1時間03分18秒	(区間18位)
2区 菅 真大 (経営4)	1時間09分31秒	(区間12位)
3区 中島 公平 (経営3)	1時間04分27秒	(区間13位)
4区 金子 元気 (経営3)	1時間03分02秒	(区間4位)
5区 服部 潤哉 (経営3)	1時間13分01秒	(区間7位)
6区 菊地 駿彦 (経営1)	1時間01分06秒	(区間17位)
7区 山本 竜也 (経営4)	1時間05分04秒	(区間4位)
8区 大石 巧 (経営3)	1時間06分39秒	(区間4位)
9区 中原 佑仁 (経営2)	1時間13分14秒	(区間15位)
10区 狭久保寛也 (経営2)	1時間12分50秒	(区間9位)

歴代成績

第80回	総合19位	11時間42分15秒
第81回	総合15位	11時間22分49秒
第82回	総合11位	11時間16分10秒
第83回	総合11位	11時間20分50秒
第84回	総合11位	11時間20分19秒
第85回	途中棄権	
第86回	総合6位	11時間17分53秒
第87回	総合11位	11時間13分26秒
第88回	総合6位	11時間10分17秒
第89回	途中棄権	
第90回	総合19位	11時間25分42秒
第91回	総合7位	11時間8分15秒
第92回	総合12位	11時間20分06秒
第93回	出場なし	
第94回	総合7位	11時間12分12秒



ゴールした狭久保を受け止める酒井雅喜(経営4、左)と山本竜也=月刊陸上競技提供

チームってすごい 来年こそ優勝争いを



4人抜き5区・服部=月刊陸上競技提供



7区・山本=高桑霞美撮影



▲(左から)2区・菅、4区・金子、8区・大石=高桑霞美撮影▶

箱根駅伝主将・7区・山本竜也(経営4) 7位でシード権を獲得し、来年も箱根駅伝に出場できることになった。これも、キャプテンの中倉優也はじめ4年生の行動に後輩がついてきてくれた、それが表れた箱根駅伝だったのではないかと。来年以降、強い後輩たちがいるので、来年こそ過去最高順位の5位を目指してほしい。

1区・西嶋雄伸(経営2) 初の箱根駅伝ということで、プレッシャーもあった。自分のペースを流れていくはずだったが、少し遅れてしまいう区以降の選手に助けられた。来年は上級生になるので、この舞台に戻る喜びを噛みしめてしっかり力をつけたい。

2区・菅真大(経営4) チームのために余力を残してあげられるような走りをしたかったが、最低限の走りしか出来なくて申し訳なく思っている。ですが、今回のチームは一人のミス全員でカバーし合える最高のチームになったので、シードという結果を残せたと思う。後輩の皆さんはこれ以上の結果を出してもらえるように応援していきたい。

3区・中島公平(経営3) もう少し勢いをつけなかったが、今ひとつ伸びなかった。自分としては、箱根駅伝の20km以上の距離をまとめて走れたことは大きな収穫でもあった。来年は4年生になるので、しっかりと主要区間を走って区間上位で戦えるように頑張りたい。給水とかタイム取りとか、選手全員一丸となって戦った結果なので、また全員リセットして皆、競い合って強いチームになって帰ってきた。

4区・金子元氣(経営3) 今回はチームをシード圏内に押し上げることを意識して攻めの走りを心掛けた。そういう走りが出たのも、沿道にあった城西の旗や力強い応援のおかげで、気持ちを切らさず、楽しんで走ることができた。シードを取ったので、この場所に戻って、来年こそ他の大学と優勝争いをするようなチームになれるかなと思うている。

5区・服部潤哉(経営3) 事前には注目されてなかったのですが、ここで勢いをつけて注目された。その通り、メディアにも注目してもらえた。来年は区間新を取って、山の神……になるのはちょっとプレッシャーが大きいので、監督の言う通り、山の村長、くらいで頑張りたい。

6区・菊地駿弥(経営1) 前を見て勝負する気持ちでいたが、後半ミスをしてしまい、後半の先輩方やチームに迷惑をかけてしまい、不甲斐ない思いをした。



シード権獲得を喜び、部長と小野元之理事長特別補佐や白幡学長ら関係者

8区・大石(経営3) 箱根駅伝のテーマは「リベンジ」だった。予選会で自分の走りができなかった。本戦はそのリベンジという区間で5位、最低でも1桁という目標を持って挑んだ。区間4位と目標を達成することができ、自信につながることができた。来年の箱根ではさらに進化した姿でスタートラインに立ってほしい。

9区・中原佑仁(経営2) 8区までいい流れで走ってきたので、自分もその流れに乗って上位を狙った。うまく走ることができず、チームに迷惑をかける形になった。上級生や仲間が助けられてシード権を獲得できたと思う。上級生になる来年は、自分が助けられることができる選手になっていけるようにしていきたい。

10区・秋久保寛也(経営2) 10区という大切な区間で使ってもらえることができた。距離に不安があったが、しっかりと走り抜こうと思って今日走った。途中の沿道でも、ずっと城西の応援が聞こえてきて、きつくなってきたから粘って走ることができた。2日間、応援ありがとうございました。

先陣方に助けられ、チームってすごいと思いが知らされた。このままでもっと落ちたくないの、なぜだめだったのか原因を突き止めて、強く速くなれるように日々努力していきたい。

白幡晶学長のあいさつ

大学が新しく変わろうとする年に、非常にありがたい結果

シード権獲得おめでとうございます。私も昨年まで駅伝部の部長をしていたもので、思い入れも強く、ものすごくうれしく感じています。選手、監督、コーチの息の合ったチームワークがなければ、こういう結果にはならなかったと思います。城西大学は50周年を経て、これから新しく変わろうというところです。そういう年にこうした結果を出してくれて、非常にありがたいと思っています。来年もワンランク上げた形で頑張っていたらいいと思います。

小野正人・男子駅伝部部長のあいさつ

城西の旗と皆様の応援がシード権につながった

この1年間、部員一同がそれぞれ歯を食いしばって一生懸命練習して頑張ってきました。これも皆様のご支援のおかげです。昨日、今日と各地に応援に参りましたが、それぞれのところで城西大学の紫と黄色の旗が沢山はためいていました。城西の旗と皆様の応援がシード権獲得につながったと思います。来年も再びこの場に帰ってまいります。女子駅伝部と男子駅伝部が、年末年始にそろって全国大会に出てひと暴れることが私たちの望みです。応援本当にありがとうございました。

富士山女子駅伝 最後まで粘るも総合11位

1区・上田は区間賞

昨日(30日)、全日本女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)が富士山のふもと、静岡県富士市で行われた。7区間43.4kmのコース。女子駅伝部は総合2時間28分27秒で、前大会の15位を上回った。

1区・上田末奈(経営3)は残り150kmでキレのあるスタートを見せ、見事に区間賞を獲得した。エースの仕事を引き継いだ2区・小笠原晴季(経営2)へ。小笠原は集団に飲み込まれ、先頭と1分11秒差の12位で、大学駅伝デビューとなった3区・岡村未歩(現代政策1)に襷を渡す。岡村は三つ順位を落とし、全体の15番目で4区の三ツ木桃香(現代政策2)へ。全日本女子駅伝区間5位の三ツ木

今回のレースとなった箱根は意地の走りを見せ、区間6位の走りで順位を11位まで引き上げた。続く6区・佐光菜々子(医療栄養2)は箱根の流れを引き継ぎ、区間7位でそのまま11位で7区・相原もこ(現代政策2)へ。相原は粘るも順位変わらず総合11位でフィニッシュした。

今回走った7人のうち6人が残る女子駅伝部。不動のエース・上田のほか、のびのびのある1年生や1年生の成長も期待できる。新生女子駅伝部の来シーズンが楽しみだ。【高桑霞美、写真も】

来年は3位の可能性も

最後の1週間で足並みそろい、いける」と確信

今回のオースターの狙いは、適材適所で配置と前半区間で上位チームと競つてを狙って、1区・西嶋2区・菅、5区・服部、そして復路の要として山本を起用するつもりで全日本大学駅伝あたりからチーム構成を考えていた。

本戦前、チームの状態はよかった。今思えば、色々なことがあったが、大か。

11月末に夏の故障があり、それが復調し、その後西嶋が故障してしまい、判断に苦しむ状況だった。しかし、最後の1週間、皆の足並みがそろってきたので、いけると確信した。

1年生を振り返って。今思えば、色々なことがあったが、大か。

8人の経験者がいることは非常にプラスになると考えている。9区途中まで4位が見える位置にいたことも大きな自信になったと感じている。メンバーその他の選手がより競争をしてレベルアップを図れば、3位の可能性があると思っています。可能性を信じて努力していきたい。

来年に向けた抱負。来年は3位の可能性も



試合後に笑顔を見せる女子駅伝部の選手たち

記者募集 連絡はこちらまで j-sports@josai.ac.jp

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。

取材スタッフ

編集長 高桑 霞美 (経営学部4年)	巻幅 仁美 (薬学部5年)	君島 麻未 (経営学部1年)	石川 慧 (現代政策学部1年)	知見寺美紀 (2014年度卒業)
松岡 遊史 (薬学部5年)	岩内 菜緒 (経営学部4年)	宝蔵寺佑樹 (現代政策学部1年)	西村 太郎 (現代政策学部1年)	吉田 美咲 (2015年度卒業)
西村健太郎 (薬学部5年)	本多 里菜 (薬学部4年)	傳法谷佑樹 (現代政策学部1年)	金子 皓飛 (理学部1年)	佐川 由紀 (2015年度卒業)

アドバイザー

Jスポ **フェイスブック** はこちら ▶ <http://www.facebook.com/JOSAI SPORTS>